

家庭学習応援だより

第3号

先日は、授業参観、学級懇談への参加、ありがとうございました。保護者の皆様にとって有意義な時間になったでしょうか。また、学級担任から子供たちの学習や生活の様子について話があったと思います。学級の実情をどのようにお感じになったでしょうか。1学期の学習面については、宿題の提出や月例テストの結果、そのほか授業の取組などが議題に上がったと思います。懇談内容について、ご家庭で話題になったでしょうか。

さて、今号では保護者の皆様からの家庭での取り組みの事例を紹介していきます。お子様への声かけや家庭でどんなことを取り組ませたらよいか、などのお悩みの方は参考にいただければと思います。

コミュニケーションボード



ここでは、「コミュニケーションボード」と題して、保護者の皆様からの家庭での学習について情報や時には職員から学校での子供たちの様子などをお伝えしていきます。今後、不定期に載せていこうと思いますが、家庭での取組として「これさえやっておけば大丈夫」というものではありません。正解は、家庭によって違うのではないかと思います。ぜひ、ご家庭にあったものを探してみてください。また、普段は仲良くしている親御さんでも、他の家庭での学習の実態までは、わからないものです。「勉強はどのくらいやっているのかな。」「教材はどれを使っているのかな。」「習い事はどうしているのかな。」など、保護者の皆様知りたいことはどんなことでしょうか。取り上げてほしいことがあれば、学校までご連絡ください。

Aさん(本校高学年保護者)のご家庭の場合

最近になり、学習塾へ入りました。算数を中心に週1回通っています。子供は「難しい。」と塾での様子を語りますが、学校からの宿題はわかるようで、「最近、わかるんだ。」と言っており、学校で何かあるのかなと思っていました。実際に、月例テストでは100点をとってくるようになり、驚いているところです。

以前は、宿題や家庭学習について、がみがみ言ったり、月例テスト前は私が問題を出したりしていましたが、親子ともにイライラしてしまうので、最近は気にかける程度にしています。親ががみがみ言ってしまうと、子供自身が自分のための勉強なのに、やらされている感覚になってしまうように思ったからです。

学習塾以外にも、習い事をしており、そのため、宿題を早く終わらせる習慣が身についてきていると思います。

子供自身は、算数のノートを意識してきれいにとっていることが自慢なようで、自らノートを見せてくれるようになりました。学年が上がり成長した部分かな、と思っています。

Bさん(本校中学年保護者)のご家庭の場合

我が家では、1日40分くらいを目安に家庭学習に取り組めるよう心がけていますが、日によって取り組める日とそうではない日があります。どこまで口を出したらいいかは悩むところですが、無理にやらせるのもどうかと思い、がみがみ言わないようにしています。また、夫婦で役割を分担しています。

兄は今年度から中学校に進学しました。6年生になった時、本人が中学受験したいというので、意見を尊重することにしました。幸い、希望する中学校に進学できましたが、いざ受験勉強を始めてみると親子ともに結構大変なこともあり、何度か挫折しそうになることもありました。今になって思うと、本人と家族で、話し合いの時間を十分にとり、周りから情報をもっと入れておくべきだったと思います。

「家庭学習応援だより」は、以前から読ませてもらっていて、家庭で参考にしていたのですが、お友達のお母さんたちの間で「今年も出してくれるんだね、今回は早い時期に出ているね。」などと話題になっていました。これからも楽しみにしています。

算数をどう教えたらいい？



家庭で我が子に算数を教える場合、思わず身構えてしまうことはないですか？「昔と今では教え方が違うんじゃないかな。」「方程式が使えるば、こんなの簡単なんだけどな。」と思ってしまわないですか。ここでは、家庭で算数を教えるときのちょっとしたポイントをお伝えしたいと思います。

キーワードは、「一から十までを教える必要はない」、「一問一問を大切にすること」です。ありきたりなことですが、意外にできていないのではないのでしょうか。具体的には、こんな感じです。

1. まず子供が問題を解く
2. 子供が自分で答え合わせをする
3. 合っていた問題、間違っていた問題を確認する
4. 間違っていた問題は、あえて子供に解説させる
5. スムーズに解説ができないものは、ノートに絵図をかきながら親が解説する
6. 子供自身に同じように絵図をかかせながら再度確認する

三角柱の体積って底辺の三角形ABCの面積に高さをかけてしょ!? だから三角柱のCとFの間の点にPという点をとるとね…!!



間違っていた問題は、【何かが理解できていない】、【何かを勘違いして覚えている】かのどちらかなので、答え合わせの後に、どう解けばよかったかを子供自身が解説します。スムーズにできれば、問題はなさそうです。答えを見てもスムーズに解説ができないものは、再び同じような問題に当たった時に、正解できないと思われる。そこで、親御さんの出番です。できれば、絵図入りで解説してあげるのがよいでしょう。どのような絵図にすればよいか迷ったときは、スマホでちょっと調べてからがよいかもしれません。また、親御さん自身もわからないときもあるでしょう。今どきは、いろいろな問題の解説動画がアップされているものです。それを見てから、解説してあげるのがよいでしょう。ただ、解説動画を親御さん自身が確認せずに、そのまま子供に見せてしまうのはどうかと思います。親御さん自身が「なるほど」と腑に落ちるものを子供に提供してあげるとよいです。

そして、子供が「わかった!」となったタイミングで、今度は同じように子供自身に絵図を書きながら解説させます。子供自身が納得して、説明できれば(友達に教えることができるレベル)次へ進んでいきます。

ポイントは、1から6まで途中で終わりにしないことです。子供の学習に付き合うことは、親として体力も気力も使います。感情的にぶつかることもあり、しんどい場面もあります。しかし、家庭学習を毎日続けていくことで得ることは多いです。確かに今と昔では、学校での子供の学びの質や学び方は違います。では、学ぼうとすること自体に違いはあるのかというと、あまり違いがないように思います。相変わらず、四則計算や九九は算数の基本ですし、小学算数で難しいとされる5年生の「割合」や「速さ」、「単位量当たりの大きさ」などのほとんどの問題は、6年生になってからでも十分克服できます。例えば、6年生で学習する「比」を使えば、【く・も・わ】や【み・は・じ】などを覚えてなくても、解くことができてしまいます。また今の時代、親御さん自身、算数が苦手でも教える方法はいくつもあります。自分の見栄のために「そんなのは自分でやりなさい。」と突き放すのではなく、「(私自身も)学び直してみようかな。」と親が学ぶ姿を子供に見せてみてはどうでしょう。子供が学習しているそばで、親が読書や調べものをしている家庭の子供の学力が高くなることは、調査でも明らかになっています。

おわりに

今回は、5月24日付・読売新聞の【人生案内】に掲載されていた記事からです。「こんなこと、相談する人なんているの?」、「この親、サイテー!」などと一蹴するのは簡単なことです。しかし、もしこのような相談を知人から受けたら、皆様ならどのようにご回答されるでしょうか。実際の記事では、大日向雅美さんという大学で学長をなさっている方が、回答しています。どんな内容か気になる方は、ネットで調べてください。このコーナーは、以前からたまに目を通していました。保護者の皆様にも考えていただきたい記事だったので、紹介しました。

50代の会社員女性。未っ子の高校入試が終わりまし。た。地元の進学校へ進学できた子は一人もいませんでした。わたしの同級生の子どもはみんな進学校に行き、有名大学に進学。学校の名を事あるごとに口にすることで、同級生とは付き合いを絶ちました。子どもが通っていたピアノ教室でも、上手な子はみんないい学校へ行き、コンクールで賞を取ります。どうせ同じように

自慢出来ない我が子

は弾けないだろうと思いは、10年間レッスンを受けていたがやめました。子どもをいい大学に入れて、自慢したかったのに全く逆になってしまいました。優秀な子の親が羨ましくて仕方ありません。自分の子の出来の悪さが恥ずかしい。入試結果で思い悩むのが嫌で、ここ数年は他人と距離を置いていて、今後ものつもりですが、やっつけようか。(福島・Y子)